

## 林業事業者からの主な意見

### 1 林大に期待すること

- ・ 基本的な技術を習得してほしい。
- ・ 技術は就職した後でも学べるが、森林・林業の理念、理想とする森林など大きな視点を養う教育をしてほしい。
- ・ 基本的な安全教育を学んでほしい。（現場に出ると改めて学ぶのは難しい）
- ・ 現場を経験してから出てくる疑問点や課題を学び直す場が必要と感じる。

### 2 最近の雇用状況

- ・ 最近の林大生は意欲が高いと思う。
- ・ 林大生を雇用したいが、限られた人数の中でなかなか採用できない。
- ・ 近年、募集を出しても林業希望者が集まらない。
- ・ できるだけ地元出身者を雇用したいが少ない。
- ・ 3年目程度で離職する就業者が多い。
- ・ 40代になると収入の面で離職する人が出てくる。
- ・ 林大生を管理部門に登用したいが、残業のない現場作業員を望む傾向にある。
- ・ 小中学生からの森林・林業を学ぶ教育が就業者を増やすためには重要。

### 3 新規就業者の雇用・教育方針

- ・ 新人を教育している余裕がないので、経験者等即戦力が必要。（小規模事業者）
- ・ 定着する人を見極め雇用している。（試用期間等で）
- ・ 人間性を重視。5年間は続けることを雇用条件としている。
- ・ 林大生も他の新規職員と同様に緑の雇用研修を受けさせている。
- ・ 育成班に入れて OB 職員が指導者となり 2年間指導している。

### 4 若者の定着対策

- ・ 若者の定着には、企業の職場環境を改善する必要あり。  
3K（きつい、汚い、危険）からの脱却（機械化推進、装備充実、安全性確保等）
- ・ 労働環境の改善には経営者の意識が重要
- ・ アパートを確保し地域外の人材も雇用している。（最終的には定住を）

# 林大の概要

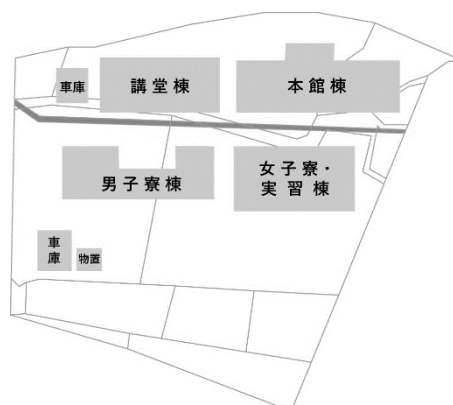
## 1 学校概要

**場所** 木曽郡木曽町新開 4385-1  
**沿革** S54.4.1 開校  
 H12.4.1 専修学校に移行(卒業後4年制大学3年次編入可)  
**修業年限** 2年  
**定員総数** 40人(1学年20人)  
**職員組織** 内部スタッフ7人、外部講師43人



## 2 施設の状況

建物種別	築年月	築年数
本館棟	S53.6	40年
別館棟(講堂棟)	S53.6	40年
寮棟(男子)	S54.2	39年
実習棟・女子寮棟	H27.3	3年



## 3 取得可能資格一覧 (17種)

森林情報士2級、林業架線作業主任者免許規程による講習修了  
 労働安全衛生規則の特別教育修了(伐木造材)、刈払機取扱作業者安全教育修了  
 伐木等機械・走行集材機械・簡易架線集材装置の運転業務に係る特別教育修了  
 森林整備業務専門技術者、車両系木材伐出機械の運転業務に係る特別教育修了  
 フォークリフト運転技能講習修了、(はい)作業従事者安全教育修了  
 小型移動式クレーン運転技能講習修了、玉掛技能講習修了  
 森林インストラクター二次試験一部免除、環境再生医初級資格、樹木医補  
 自然再生士補、日本赤十字社救急法救急員認定、日本赤十字社救急法救急員養成講習受講

## 4 関係機関との連携

- ・信州大学・・・連携協定締結済、合同で高性能林業機械実習実施
- ・林業総合センター・・・センター職員を講師として派遣

## 現行の授業科目・試験方法

### 1 授業科目一覧

一般教養科目		専門教育科目			
科目	授業名	科目	授業名	科目	授業名
人文科学	哲学	育林・生態	造林学	林産	木材物理学
	心理学		森林保護獣害対策学		木材加工学
	文学		樹木医学		特用林産学
社会科学	法学	育林・生態	樹木学	森林政策	林政学
	社会学		森林生態学		林業概論
	経済学		森林土壌学		校外研修
自然科学	数学	森林資源管理	森林気象学	体験研修	総合実習
	物理学		測樹学		体験研修
	化学		林業経営学		自主研究
	生物学		簿記		特別講座
	情報処理学		森林計画・普及論	インターンシップ	インターンシップ
外国語	英語		木材商業論Ⅰ	森林管理コース (選択)	林道工学
芸術	彫刻		森林情報論		治山工学
保健体育	体育	森林土木	森林地質学	森林資源活用コース (選択)	野生鳥獣対策
			治山工学		施業プラン作成
		森林土木	林道工学	木材利用コース (選択)	林道工学
			造園学		素材生産実習
		景観・保健	測量学	木材利用コース (選択)	木造建築構造概論
			森林風致計画学		木材加工学
		森林機械	救急救命	木材利用コース (選択)	木材商業論Ⅱ
			保健休養学		
		森林機械	林業機械学	<b>総授業時間数 1,343 時間</b> うち教養：専門＝255：1,088（1：4） 講義：実習＝681：662（1：1） インターンシップは74時間（6%）	
			林業架線学		

### 2 試験方法

一般入試	推薦入試
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 審査内容</li> <li>・ 人物考査（200点）：面接</li> <li>・ 筆記試験（200点）：高校卒業程度の基礎学力を問う総合問題（国語、数学、英語）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 審査内容</li> <li>・ 小論文（60分）及び人物考査</li> </ul>

# 教育理念・教育目標・教育の柱

## 1 教育理念

本学は、信州の美しく豊かな山岳・森林資源を、自然の営みと伝統文化を尊重し、農山村社会における複合的価値として磨き上げるための森林・林業の教育・研究拠点です。

林業が世代をつないだ豊かな地域社会づくりに貢献できるよう、専門知識と技能・技術を身につけた人材を育成します。

また、いつでも誰でも、森林・林業の「学び」を継続できる生涯教育を展開します。

## 2 教育目標

- (1) 森林の多様な価値を創造することで地域課題の解決に寄与できる人材
  - ・ 森林生態系に依拠した森林づくりのプランニングと施業の実行
  - ・ 多方面にわたる森林と木の利活用のための知識とビジネススキルの素養
  - ・ 観光、エネルギー、健康・福祉など地域住民誰もが関わる多様な分野への貢献力
  
- (2) 変化の激しい時代を生き抜く林業専門職としての社会的資質を備えた人材
  - ・ 将来を見据え、そのために今何をすべきかを考えられる目的志向性
  - ・ 時代の変化に対応する柔軟性と学び続ける意欲
  - ・ 連携する力と伝え合えるコミュニケーション力
  
- (3) 科学と安全性を重視し、高い倫理観を持って組織と社会に貢献する人材
  - ・ 科学的知見に裏付けられた最新の知識とそれに基づく技術・施業による説明力
  - ・ 安全に作業を行うことができる現場技能と危険を回避できる判断力
  - ・ 世界基準での職業倫理を地域社会・組織内で実践できる高い倫理観

### 3 教育の柱

#### (1) 生態的・経済的・社会文化的側面に配慮した持続可能な農山村社会の構築を目指す力の養成

- ① 自然に謙虚に向き合い、森林の構造と特性を深く理解し、森林の生態的能力の限界、生物多様性の意義について学び、多様な価値に対する創造力を養う。
- ② ICTをはじめとする革新技術を駆使し、観光、エネルギー、健康・福祉といった関連産業との繋がりを踏まえた森林経営や計画・管理手法を習得する。
- ③ 農山村社会の生活や文化等の基礎的構造を学び、他者との連携によって相乗効果を引き出し、地域や組織を向上できるチーム管理能力と応用力・汎用力を養う。

#### (2) 急速に変化する社会・技術に適応する専門職のための生涯教育

- ① 生涯教育プログラムを提供し、技術力や経営力の継続的・段階的な能力向上を図り、農山村社会の活力と発展に寄与する適応力を養う。  
(リカレント教育、リーダーシップ教育、マネジメント教育、現場指導者教育・資格取得など)

#### (3) 組織や実社会で自律的に振る舞うことができるための全人教育

- ① 全寮生活や現場実習・研修を通じて、個人の自律性・主体性・協調性・未来志向性を養う。
- ② コミュニケーション能力・ファシリテーション能力・協働能力・リーダーシップ力を培うための一般教養科目(実務作文・プレゼンテーション・英語・討論・簿記)を基礎として、地域社会に貢献できる人間形成を目指す。

#### (4) 科学と技術に裏付けされた実践と対話を重視する双方向教育

- ① 実習や科学実験を重んじ、指導者と学生が対話を通じて、新時代の社会要請に対応し得る生きた教育を行う。
- ② 産業・大学・行政や試験研究機関との連携のもとに、林業現場で必要とされる専門技術及び知識を習得させ、信州林業の進むべき方向に沿った教育を行う。

#### (5) 危険を回避できる適切な判断力と安全管理及び職業倫理の醸成

- ① 作業環境の整備、機械・用具の点検、生産システムの改善等を学び、危機管理能力を養う。
- ② 自らの仕事に対する社会的役割や責任を理解し、地域社会に貢献できる職業倫理観を養う。
- ③ 現場安全作業と危機管理に必要な専門資格取得を目指す。

# 教育目標と教育の柱の相互関連性

(別表)

		教育の柱											
		(1) 生態的・経済的・ 社会的側面			(2) 生涯 教育	(3) 全人教育		(4) 双方向教育		(5) 安全管理と職業倫理			
		①	②	③	①	①	②	①	②	①	②	③	
教育 目 標	① 多様な価値 創造・地域課題 の解決	森林づくりの計画と実行	◎	◎									
		森林と木の利活用		◎	◎						○		
		他産業との連携・貢献	○	◎	◎						○		
	② 変化する時 代を生き抜く 社会的資質	目的志向性				◎	◎		○				
		柔軟性と意欲				◎	◎		○	○			
		連携力・コミュニケーション能力		○	◎			◎		◎			
	③ 科学と安全 性・倫理観	科学的知見、説明力	○					◎	◎				
		安全作業、危険回避力							◎		◎	○	◎
		職業倫理				○					○	◎	◎